

第2回瀬田川整備検討委員会  
議事概要

1. 日 時：令和4年10月26日（水） 10：30～12：00
2. 会議方法：対面及びweb
3. 出席者：別紙 委員名簿参照

4. 議事概要

委員：目標流量については理解した。鹿跳溪谷の改修で河床掘削案が優位であることを了解した。今後はこれを前提に議論を進めていくことについても了承した。

委員：鹿跳溪谷対策でバイパス放水路トンネル案と比較して河床掘削案が最適というのは事業評価委員会などの第三者からの評価を得たものなのか、それとも事務所で判断したものか。

事務局：これまで検討を進めてきた中で、整備の実現性、コスト、整備後の維持管理面、地域社会への影響の観点から優位であり、事務局が最適な整備方法であると判断したものを提示させていただいた。

委員：土砂動態の把握に関して、縦断的な通過土砂量を見せていただきたい。また、精度面での確認となるが、解析結果は大戸川合流点のところで変動が激しく3m程度の土砂堆積もみられるが、実際はどうなっているのか。解析の精度があまり良くなくて、妥当性がないものになっていないか。

事務局：縦断的な通過土砂量については、今後お示しをしていきたい。精度面については、平成25年洪水前後の定期縦横断測量において大戸川合流点付近で解析と同様に1～3mの土砂堆積がみられる。解析の結果とも概ね整合しており、妥当なものと評価している。

委員：なぜこの洪水を対象に解析したのか、平成25年洪水と宇治川の計画洪水との関連性を説明してもらえると、分かりやすくなるのではないか。

事務局：淀川水系において、平成25年洪水は近年で最大の洪水であり、宇治川、桂川、淀川では従前の戦後最大洪水を超過し、河川整備計画を変更する契機ともなった。大きなインパクトの洪水であることから、解析の対象とした。

委員：米かし岩について、「河川管理上必要と認めるときは自然記念物の解除に向けて協議」とされており、河川の目標流量確保上必要な措置と理解しているが、できるかぎり米かし岩の保存についてご検討いただきたい。

事務局：米かし岩（甌穴）については、今後、具体的な掘削形状の検討を進めていく中で、甌穴を残すような形で整備ができるのか明らかにしたい。滋賀県には「河川管理上の必要と認めるときは自然記念物の指定の解除に向けて協議」を行うことを事前に確認しており、仮に残すことが困難となる場合には、滋賀県と協議を行うことを考えている。

委員：できるだけ残せるよう前向きに工夫して検討願いたい。

委員：今後、施工方法等を考えていく際に、甌穴については保存、あるいは移設などの様々な選択肢も含めて協議していき、この委員会で諮りたいと考えている。

委員：甌穴がどういうものか見たことがないので、景観、土砂堆積を含めて、現地をみる機会を検討頂けるとありがたい。

事務局：現地視察の機会が設けられるように検討し、委員各位にご案内をさせていただきます。

委員：景観について、前回桂川の例で挙げた天龍寺十景などの水辺に関わる特段の歴史的、文化的景観の資料は無いことがわかった。鹿跳溪谷では立木観音駐車場から見える自然景観が中心であり山と河川が創る河川上流部の自然景観を守ることが重要であることが分かった。それを前提に考えると、平常の流量が 15m<sup>3</sup>/s と大きな水の流れがないところなので、河原をなす砂礫層が一定の幅で見えることが景観の特徴である。河原に大きな岩があるような上流部の河川景観を大きく改変しない整備の方向性が大事であると改めて認識した。

委員：検討のフローについての確認であるが、本日の委員会の段階は、2つ目に示してある「整備に対する基本的な考え方」を説明頂いているということの良いか。

事務局：確認をいただいたとおりである。

委員：観光面に配慮頂いた整備で、立木観音周辺の景観はほとんど変わらないと理解した。もう一つ観光面でいうと、カヌー以外にラフティングがあり、コロナ禍以前では口コミサイトのアウトドア部門で1位となったことがあるほど人気である。今回の掘削でラフティングに必要な急流などについて、ラフティング事業者にもヒアリングし、工事期間についても説明をお願いしたい。

事務局：ラフティングの事業者にも、ヒアリングをさせていただいているところである。今回、説明させていただいた幅 5m、水深 1.5m の条件以外にも、急流のポイント等を確認して整備を進めていきたいと考えている。

委員：現地で状況を各委員とも共有したい。その際、カヌーやラフティングの

利用状況がわかるものも提示いただきたい。

事務局：カヌー協会などとも調整し、対応したい。

委員：現場の視察を行うことは想定していた。カヌーやラフティングを体験するのは難しいが、現場でカヌーやラフティングの利用状況を映像等で紹介したいと考えている。国民スポーツ大会との関連があり、分かりやすくカヌーを代表して提示しているがラフティングのことを考えていないわけではない。現在利用されている範囲を守るべきと考えるが、できることとできないことが出てくるため、逐次報告させていただき、意見を賜りたい。

委員：現地視察時にラフティングしている様子を見ることや映像など活用して見せて頂きたい。

委員：景観について、67.4k 付近の眺望に代表される、同じような幅の河原の砂礫層の帯が特徴的な景観であり、重要とわかった。そのような景観を守る場合、土木学会でも注目された曾木の滝分水路の事例にもあるように微地形も大きく改変しない掘削方法が大事である。景観に配慮した掘削方法の説明に関して、河川の風景は連続性が重要なので掘削後の水位と河原との位置関係、面的関係がわかるようにして欲しい。瀬とか淵などについても変化がないのか可能であれば確認したい。

事務局：水際のラインや景観の見え方を次回の委員会に向けて検討し、あらためて説明させて頂きたい。

委員：掘削イメージの横断面図に関して、全体的に現状の河床形状を一律低下させることが基本方針で、瀬淵や勾配はあまり変わらないことを強調し、必要な場所は深く切り下げるという説明にしてはどうか。あわせて、鹿跳溪谷の現状の縦断面図について、最深河床高、河原の高さ、あるいは米かし岩の位置などの情報を追加するとイメージを持ちやすいのではないか。

事務局：頂いたご意見を参考として、次回の委員会では分かりやすく提示したい。

委員：1点目は注目種について、注目種の選定（案）では、水辺の国勢調査をもとにしていると思うが、隔年的に行われる調査において、恒常的に確認される重要種、貴重種を注目種に選定するのが重要である。2点目は、底生動物について、この場所で特徴的なハベカワニナをぜひ注目種に加えて欲しい。3点目は感想だが、資料の航空写真で白波が立っている瀬が景観上やラフティング等の利用上重要だと考えるので残して欲しい。

事務局：1点目について、水辺の国勢調査は分類ごとに定期的に行っており、魚類のアユ、カワヨシノボリ、ギギは継続的に確認している種である。一方で、底生生物については、直近の調査で確認された種になる。2点

目は、貴重なご助言を伺ったので注目種に加えて評価できるよう検討していきたい。3点目については、そのような瀬の場所をできる限り残せるように配慮していきたい。

委員：県の関係部局を通じてカヌー関係の要望を聞いており、河川利用者の意見として紹介するので参考にさせていただきたい。1点目は国民スポーツ大会、前年のリハーサル大会、強化練習にも支障のないよう工事関係について事前に調整頂きたい。2点目は複雑で多様な流れの保全・復元についてであり、特に67.4k~67.6kの区間は流れの落ち込みや白波、渦、逆流の発生など複雑で多様な流れが連続する区間であり、改修では多様な流れの保全・復元に配慮いただきたい。3点目は河川利用への配慮について、水面利用のための階段や通路の整備など親水性の確保などに配慮をお願いしたい。ラフティングについても、複雑で多様な流れの保全・復元、美しい河川景観の保全、関係者との調整をお願いしたい。また、カヌー利用に配慮した掘削として川幅5m、水深1.5m確保するとされているが、カヌーも多様な競技があるので、ご確認いただきたい。自然環境、河川利用、河川景観などの観点から、掘削の工夫が重要であり、掘削断面の形状や仕上げに関して可能な工夫をお願いしたい。

事務局：国民スポーツ大会関連について、これから検討を進める中で調整していきたいと考えている。水深と川幅の条件について、カヌー協会やラフティング団体へのヒアリングを実施し、ご意見を伺いながら検討していきたいと考えている。

委員：市の立場からいうと、瀬田川の断面確保の重要性は理解している。河床掘削について、自然環境、景観等の課題がある。観光面でもラフティングへの配慮をお願いしたい。市としては、地域住民や関係者のご理解や調整が重要と考えているのでよろしくをお願いしたい。

委員：鹿跳溪谷における河川整備の基本的な考え方の趣旨についてはご理解いただけたかと思う。その上で見せ方の工夫について、ご助言を頂き誠に感謝している。掘削方法についても試行を重ね、新しい技術も取り入れて、一番適切な方法を検討していきたい。

委員：掘削形状の基本的な考え方に関しては示された方法で良いと考える、また、景観に配慮した岩の表面仕上げに関しては、鹿跳溪谷と曾木の滝分水路で全く同じ岩ではないことから、そのまま適用することが出来ない場合もあるので留意が必要である。

委員：土砂動態の予測にあたっては、今後の大戸川からの土砂供給がどのようになるのか考えることも重要である。

委員：整備後の水面低下や河床形状の変化も考慮して、水域と陸域を移動するような生物や、河道内の凹凸から流速の遅いような場に生息している生物の環境変化を検討することも大事である。

委員：好適生息環境の変化予測については、単に面積の増減を指標とするのではなく、好適な生息環境の分布や箇所数がどのように変化するかといった観点で評価することも重要である。

## 瀬田川整備検討委員会 名簿

令和4年3月28日

○委員長

| 氏名                 | 役職                                  | 分野             | 備考  |
|--------------------|-------------------------------------|----------------|-----|
| かねこ ひろみ<br>金子 博美   | 公益社団法人 びわ湖大津観光協会<br>副会長             | 親水性<br>(利用・観光) |     |
| かわさき まさし<br>川崎 雅史  | 京都大学大学院 工学研究科<br>社会基盤工学専攻 教授        | 景観             | web |
| さとふか よしふみ<br>里深 好文 | 立命館大学 理工学部<br>環境都市工学科 教授            | 治水             | 欠席  |
| ○ なかがわ はじめ<br>中川 一 | 京都大学 名誉教授                           | 治水・防災          |     |
| ふくしま まさき<br>福島 雅紀  | 国土交通省 国土技術政策総合研究所<br>河川研究部 河川研究室 室長 | 河川             | web |
| まえはた まさよし<br>前畑 政善 | 神戸学院大学 人文学部<br>元教授                  | 環境             |     |
| 行政                 |                                     |                |     |
| 氏名                 | 役職                                  | 備考             |     |
| や の ともひさ<br>矢野 公久  | 国土交通省近畿地方整備局<br>琵琶湖河川事務所 所長         |                |     |
| いぶき のぶと<br>伊吹 信人   | 滋賀県 土木交通部<br>流域政策局 局長               |                |     |
| まつざわ ひでお<br>松澤 秀夫  | 大津市 建設部 部長                          |                |     |

(五十音順 敬称略)